

令和元年度入間野中学校生徒会の記録1月

新年がスタートしました。2年生が生徒会活動を中心となって動かす学期になりました。入間野中学校の生徒会活動の基盤を引き継ぎ、発展していけるように、頑張らしましょう。昨年に引き続き、目指すは「狭山一の学校」です！

1/15 第8回専門委員会

今回の専門委員会は3年委員長に代わって、2年代表が中心になって運営しました。

1/18 狭山市インターネットシンポジウムに参加

昨年度に続き、今年度も狭山市主催のインターネットシンポジウムに本部役員3名が参加しました。

香川県議会は「子どものゲーム機の使用は平日は60分まで」。こんな条例の素案をがまとめ、議論がわいています。条例の目的は依存症の防止です。WHO(世界保健機構)は昨年、ギャンブル依存症などと同じ精神疾患として、「ゲーム障害」を認定しています。長時間スマホやゲームを利用して



いる生徒の学力低下も懸念されています。

依存症対策として条例をこのように制定することに対しての話合いが行われました。参観の保護者からは中学生に対してスマホの使い方に関する質問が寄せられたりと、参会者みんなが「スマホの使い方を考える会」になりました。



1/21 1・2年生合同朝会

今年の3年生を送る会のテーマ

「ひらけ！輝け！未来への扉！」

21日の1・2年合同朝会では、組織の確認を行い、「1・2年生が協力して3年生へ感謝の気持ちを表す会を作ろう」と決意を新たにしました。



1/22 埼玉県ネットトラブル防止サミット 2020

埼玉県でも、中学生のネットに関するトラブルを未然に防ぐことを目的として、生徒目線での取り組みを行っています。本校は、「生徒自身による『私たちのネット利用ルール』づくり」の活動推進校に埼玉県教育委員会から指定されています。

この日、うらわ市民会館で、入間野中学校が約1年間かけて取り組んできた活動についての報告をしました。特に、「くるりんぱっ」については、感情のまま発信することによるトラブルを未然に防ぐという点で現代のトラブル事情に合っており、またネーミングもよいと評価されました。

本校のほかにも県内の中学校、高校の取組が報告されています。高校生中学生をパネリストとしたシンポジウムも同時開催されました。

子供たちのネット事情は大人が把握しているものとはかなりのギャップがあります。子供だから大事にしたいこと、大人だから大事にさせたいことにもギャップがあります。最後に、インターネットアドバイザー(今回のシンポジウムのファシリテーター)から、ネットを上手に使うという視点は未来を創るものである、という話で会は閉じました。本部役員は今回のサミットに参加したことで、今後も生徒目線で考える取組の大切さを感じ、活動継続への誓いをあらたにしました。



本校の取組が埼玉新聞で紹介されました。

中高生が対策発表

県ネットトラブル防止サミット

県教育委員会が21日、さいたま市浦和区で、「県ネットトラブル防止サミット」を開催した。中学生・高校生が自ら取り組みているインターネット利用のルールに関する発表や、ネットイースカッションを行い、会場に集まった約400人の小中学校と高校の教員やPTA員らと共に、ネットトラブルの防止や利用方法について考えた。

県教委が2018年6、7月に行った調査によると、平日にネットを利用する割合は、高校2年生で約98%、中学3年生で約90%、小学6年生で約80%に上る。会場交流サイト(SNS)などの利用の際にいじめやトラブルに遭った経験がある児童・生徒数は、高1が約1千人、中2が約1万6千人、小6が約6千人と試算している。

サミットでは公立中学校6校と私立高校9校の生徒が講師。狭山市立入間野中学校の生徒らは「ネットフォンの向き合い方」について、書き込みによってトラブルに発展しないため、思ったことをすぐSNSに書き込まず、頭の中を一周、そのふんしよく考えてから発信するなどの心得を1つのルールを掲げていることを紹介した。

パネリストとして参加した入間野中・高生は、SNSでの投稿の際の注意や、プライバシーをテーマにした中高生が意見を述べた。また、どのネットを利用する割合は、高校2年生で約98%、中学3年生で約90%、小学6年生で約80%に上る。会場交流サイト(SNS)などの利用の際にいじめやトラブルに遭った経験がある児童・生徒数は、高1が約1千人、中2が約1万6千人、小6が約6千人と試算している。

県教育委員会は、ネットイースカッションを行い、会場に集まった約400人の小中学校と高校の教員やPTA員らと共に、ネットトラブルの防止や利用方法について考えた。

県教委が2018年6、7月に行った調査によると、平日にネットを利用する割合は、高校2年生で約98%、中学3年生で約90%、小学6年生で約80%に上る。会場交流サイト(SNS)などの利用の際にいじめやトラブルに遭った経験がある児童・生徒数は、高1が約1千人、中2が約1万6千人、小6が約6千人と試算している。

サミットでは公立中学校6校と私立高校9校の生徒が講師。狭山市立入間野中学校の生徒らは「ネットフォンの向き合い方」について、書き込みによってトラブルに発展しないため、思ったことをすぐSNSに書き込まず、頭の中を一周、そのふんしよく考えてから発信するなどの心得を1つのルールを掲げていることを紹介した。

1/28 生徒朝会

全校生徒向けにネットトラブル防止サミットの参加報告を行いました。

生徒自身が決定した「スマホとの向き合い方」を1人1枚のカードに

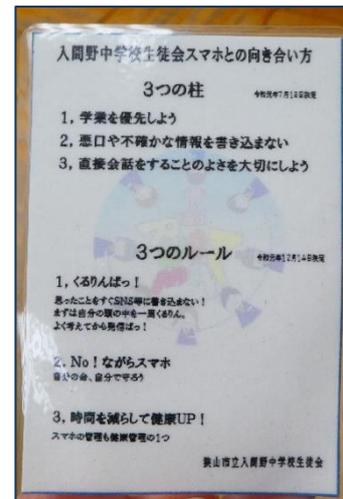


して配布をしました。

カードの制作には、本部役員他美術部員が協力してくれました。
ありがとうございました。

今後、本校の取組を2月第2土曜日に行われる
「さやまっ子いじめ撲滅サミット」でも市内の小中学校に向けて
発信する予定です。

本部が制作した「入間野中学校
スマホの使い方」カード



書き損じハガキ・未使用切手・使用済切手などを集めています。

視聴覚障害の方の施設運営を応援する
目的で使用されます。

職員室前のピンクのBOXに直接入れて
ください。ご協力をお願いします。